

常用漢字表に関する今後の論点（案）

➤ 交ぜ書き（「障がい」）について

- ・ 交ぜ書き表記についての国語分科会としての考え方
- ・ 交ぜ書きに関する国語施策の経緯

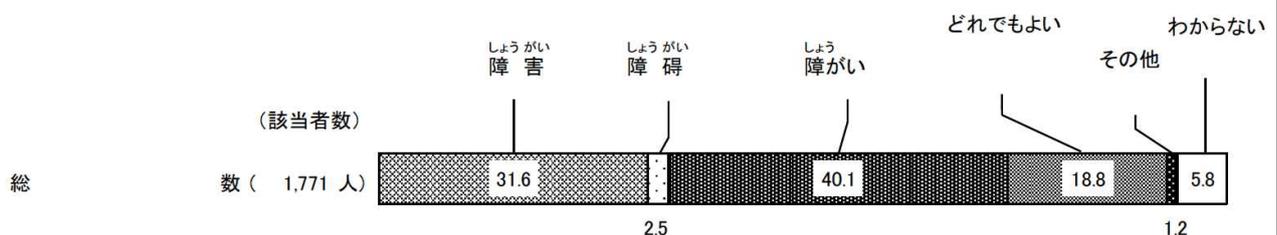
（参考） 「障害者に関する世論調査」（平成 29 年 9 月 内閣府政府広報室）

- ・ 調査対象 全国の日本国籍を有する 18 歳以上の者 3,000 人
有効回収数 1,771 人（回収率 59.0%）
- ・ 調査期間 平成 29 年 8 月 3 日～8 月 13 日（調査員による個別面接聴取）
- ・ 調査目的 障害及び障害者に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

（10）しょうがいの表記

問 16 「しょうがい」の表記について、法令では四角で囲った字（**障害**）を使っていますが、この表記の在り方については、さまざまな意見があります。「しょうがい」の表記として、どれがふさわしいと思いますか。この中から 1 つだけお答えください。

	平成 29 年 8 月	（参考）平成 24 年 7 月
・ <small>しょうがい</small> 障害	31.6%	33.8%
・ <small>しょうがい</small> 障碍	2.5%	2.4%
・ <small>しょう</small> 障がい	40.1%	35.5%
・ どれでもよい	18.8%	21.9%



➤ 一般の用語としての「障害」との関係について

- ・使い分けが可能か
- ・使い分けが困難である場合の対応

➤ 国語施策の新たな課題について

- ・専門用語等の言い換えに関する考え方や方法の整理
- ・語彙や用語という観点からの漢字施策の整理
- ・相手に対する配慮などの観点からの語の整理がどの程度まで可能か

➤ 新たな用語の検討について

- ・新たな用語の検討に関する提起ができないか
- ・議論を喚起するような提案であれば可能か